

投開票事務における従事者数について（案）

資料 3

	（前回までの従事者数）			（次回の従事予定者数）				
	投票	開票	合計	投票	開票	合計		
1 票								
	市議会議員選挙【単独】 （H25.10.20）	355	106	461	市議会議員選挙 （H33.10）	353	118	471
	市長選挙【単独】（H24.10.14）	359	97	456	市長選挙 （H32.10）	353	118	471
	県議会議員選挙（H23.4.10）	365	100	465	県議会議員選挙 （H31.4）	353	118	471
	県知事選挙（H30.6.24）	353	132	485	県知事選挙（H34.7）	353	118	471
2 票								
	参議院議員選挙（H28.7.10）	421	133	554	参議院議員選挙 （H31.7）	421	156	577
3 票								
	衆議院議員選挙【単独】 （H26.12.14）	447	139	586	衆議院議員選挙 （H33.12）解散がない場合	447	160	607
4 票								
	衆議院・市議会議員選挙【同日】 （H29.10.22）	471	160	631	衆議院・国民投票【同日】 未定	471	171	642
5 票								
	衆議院・参議院議員選挙【同日】 （実績無）				衆議院・参議院議員選挙 【同日】未定	521	201	722

・直近の選挙である滋賀県知事選挙においては、投開票事務従事者485名と防災待機者136名を選定し、合計621名であった。よって、防災業務と選挙事務の兼務を行うこととすると、最大約620名の職員が従事可能と想定でき、3票の衆議院議員選挙までは、正規職員のみで対応が可能である。

【参考】H30.4.1現在職員数 845人（臨時職員、嘱託職員を除く。）

内、選挙事務に従事可能な職員数 約620人

※225人のうち、半数程度は医療職、残りは保育士、調理師、図書館員などである。

・万一、同一選挙となった場合は、市役所の臨時職員約150名、嘱託職員約300名の中から100名程度を従事者とすることを検討する。

・万一防災対応が必要となった場合は、投票者数も減ると想定されることから、概ね各投票所から1名ずつで95名、開票所から40名程度が防災対応にまわる。開票所からの40名は各係の人数割合を参考に均等に選出する。また、防災対応者は甲賀市災害時初動マニュアルに基づき、危機管理課や建設部などから優先的に選出する。